

令和6(2024)年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6月1日 / 年度末 3月1日
氏名	山田 明日美
子ども学科	講師
学科以外の兼務職	学務課学生支援担当キャリアデザイン係、学生サポートセンター

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の5つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会やFD委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて3年間公表します。

1. 責務 (何を行っているのか)

①担当科目

担当科目名	学科	学年
音楽Ⅰ (ピアノ)	子ども	1
音楽Ⅱ (ピアノ)	子ども	1
音楽Ⅱ (音楽表現法)	子ども	2
音楽Ⅲ	子ども	2
幼児と音楽表現	子ども	1
音楽科教育法	子ども	2

②担任制度

担任 (1年生)	有	担任 (2年生)	有
----------	---	----------	---

③委員会活動

運営協議会		SD委員会	
研究倫理委員会		地域連携委員会	委員長
危機管理委員会		入学者選抜委員会	
自己点検・評価委員会		広報委員会	
認証評価準備委員会		高大接続・連携委員会	委員長
図書委員会		保育・教育実習運営委員会	委員
学生委員会	委員	ハラスメント防止委員会	
障害学生支援・学生サポートセンター運営WG	委員	教員資格審査委員会	
キャリア支援委員会	委員	教員採用選考委員会	
教務委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	
FD委員会		授業料等減免者審査委員会	
奨学生奨学金審査委員会		紀要編集委員会	
学生調査委員会		教職実践演習運営委員会	
教学調査委員会		学長推薦選考委員会	
不正調査委員会		衛生委員会	

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A (産業振興に向けた産官学連携事業) 学内代表	担当
協議会事務局		WG-B (地域コミュニティの活性化事業) 学内代表	
WG-D (事業管理) 学内代表		WG-C (地域を担う次世代人材の育成) 学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ 無
助成者	

資金名	
研究種目	
期間	
助成金額（期間中合計）	
研究課題	
備考（分担者等）	

2. 理念（どのような考えに基づいて行っているのか）

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【子ども学科】 幅広い知見と豊かな教養を備え、子どもに関わる専門的な知識・技能と実践力を修得し、向上心や探究心をもって保育・教育の分野に広く携わることのできる人材の育成
個人の教育理念・目標	音楽における専門的知識や表現力を身に付けさせるため、個人のレベルに応じた丁寧な指導を心掛けるとともに、授業内容の工夫と改善を図る。 学生支援においては、学生に寄り添い、できる限りサポートできるよう努める。

3. 方法（その考えをどうやって実現しているか）

授業	ピアノの授業においては、昨年度の学生からのアンケートをもとに授業内容などを改善してきた。個々のレベルに応じた丁寧な指導に加え、保育者・教育者としてふさわしい弾き歌いができるよう、ピアノの技術の向上だけでなく、歌声や表情なども含めて豊かな表現力を身につけることを目指して指導してきた。 音楽表現の授業においては、昨年度の反省を活かし、知識→実践→グループ発表に上手く繋げ、90分の授業の中で効率よく授業が進められるよう内容を改善しながら行った。 音楽科教育法の授業においては、受講している学生の能力や理解力に柔軟に対応できるよう、授業研究を深めながら臨機応変に授業を行った。
授業以外（学生支援等）	学生の要望に応え、放課後や空き時間など授業以外の時間にもピアノのレッスンを積極的に行ってきた。 また、学生支援担当としても、悩みの相談など、できる限り学生に寄り添えるよう、必要に応じて話を聞く時間を作ってきた。

4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	昨年度に比べると、特にピアノの授業においては不満を言う学生が少なくなり、改善して良かった部分が多かったように思う。他教科も成果は出ていたと思う。
授業以外（学生支援等）	学生に寄り添うことで信頼関係もできるため、学生一人一人に関わることを増やすことができ良かったと思う。

5. 目標（今後どうするか）

授業	今後も引き続き学生目線で更なる授業改善をしていきたい。しかし、求めるものが厳しすぎた教科もあるため、評価規準については改めて見直していきたい。
授業以外（学生支援等）	今後も授業以外でも気軽にピアノのサポートや相談に乗ることができるような雰囲気を作れるよう、学生との関わりを積極的に増やしていきたい。

6. 重点目標に関する自己点検・評価（特に努力した2項目）

担当業務	昨年度の経験を活かし、学校園インターンシップ、ぶんぶんひろばなど、子ども学科に関する担当業務を効率よくこなせるよう努めた。 また、高大連携の活動においても、昨年同様に行ってきた。
教育	学生のための授業が展開できるよう、昨年度より改善や工夫をしてきた。 また、学生支援担当として学生の悩みや相談にもできる限り対応できるようにした。

7. 記載内容に関する根拠資料

- ①令和6(2024)年度 滋賀文教短期大学 シラバス
- ②令和6(2024)年度 滋賀文教短期大学 科目別成績分布状況
- ③令和6(2024)年度 滋賀文教短期大学 担任一覧表
- ④令和6(2024)年度 滋賀文教短期大学 委員会構成名簿
- ⑤令和6(2024)年度 滋賀文教短期大学 組織図

以上